

相談支援・コーディネート論 シラバス

1.授業概要

相談・調整を行う専門看護師として必要な態度とスキルについて学び、がんサバイバーが医療現場や地域・在宅においてがんと共生する上で直面する課題（ゲノム医療・遺伝性腫瘍の課題、緩和医療における課題、療養生活における課題（就学・就労、妊孕性など））に関する相談支援ならびに多職種間調整ができる基礎的能力を涵養する。

2.到達目標

以下の1)～3)について到達できることを目標とする。

- 1) 専門看護師が行う相談と調整について理解する。
- 2) 適切な態度とスキルを用いて相談支援や調整を行う。
- 3) がんサバイバーが様々な場でがんと共生する上で直面する課題に対する相談支援について検討する。

3.授業日程・授業内容

日時（方法）	授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
5/8（金） 18：00～19：30 （オンライン）	第1回	専門看護師が行う相談と調整、相談支援や調整に必要な態度とスキル、がんサバイバーが様々な場でがんと共生する上で直面する課題（中村由美先生）	【事前学習】専門看護師の役割について
6/6（土） 10：30～12：00 （対面）	第2回	アサーションとは、捉え方のアサーション、伝え方のアサーション	【事前学習】アサーションの考え方および必要とする場面について
6/6（土） 13：00～18：00 （対面）	第3回	演習：事例を用いて相談支援の方略を検討する（森井淳子先生、中村由美先生）	【事前学習】演習課題について
	第4・5回	演習：事例を用いたロールプレイ①②（中村由美先生、森井淳子先生）	
適宜（現地での演習）	第6・7回	相談支援センターでの相談支援の現状①②	【事前学習】相談支援センターの機能と特徴について
8/31（月） 18：00～19：30 （オンライン）	第8回	がんと共生するうえで直面する課題、課題に対する相談支援の検討（森井淳子先生）	【事前学習】第6・7回の演習での学びも含め、がんと共生する上で直面する課題と相談支援について、発表内容としてまとめる。

4.成績評価

- ・達成目標の1)～3)の達成度により評価を行う。演習における目標達成状況(70%)、課題レポート(30%)で評価する。総合して目標の60%以上を理解し、説明することができたものを合格とする。
- ・課題レポート：がんと共生する上で直面する課題(ゲノム医療・遺伝性腫瘍の課題、緩和医療の課題、療養生活上の課題などから一つ)および課題に対する相談支援について、授業を踏まえてレポートにまとめる。
- ・インテンシブコース受講生は、原則としてすべての授業への出席を必須とする。

5.履修上の注意

- ・授業スケジュールは適宜調整し提示する。第1・8回はオンライン授業、第2・3・4・5回は対面授業、第6・7回は臨地での演習とする。
- ・オンライン授業は、Zoomを用いるためアプリをインストールして授業に参加する。オンライン授業の際の通信費と臨地での演習は自己負担とする。
- ・対面授業は大阪公立大学阿倍野キャンパス看護学舎で行う。
- ・課題レポートは第8回受講日の1週間前までに提出すること(A4用紙3枚以内)。また発表時間は1人あたり8～10分とする。

6.教員への連絡方法

作田裕美：sakuda@omu.ac.jp

林田裕美：yumihay@omu.ac.jp

徳岡良恵：tokuokay@omu.ac.jp

高尾鮎美：a-takao@omu.ac.jp

(がんとの共生を支える専門看護師強化プログラム A)
 持続的かつシームレスなケアの実現に向けた能力向上プログラム
 がん予防教育演習 シラバス

1.授業概要

医療機関および地域において持続的かつシームレスにがんサバイバーへのケアを実現するために、質の高い相談支援や調整を円滑に行うことができ、また、地域住民に向けた的確な情報提供を行う能力を有して、地域住民とがんサバイバーの QOL に寄与することを目指す。

2.到達目標

以下の 1) ～3) について、到達できることを目標とする

- 1) 専門看護師として活用できる教育的スキルを習得できる
- 2) 一般市民・がんサバイバーへの教育を立案できる
- 3) 2) で立案した教育を実践し、評価できる

3.授業日程・授業内容

日時 (方法)	授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
5/30 (土) 10:30～14:30 (オンライン)	第 1 回	専門看護師として活用できる教育的スキル (1) 行動経済学、ナッジ理論 (教員)	【事前学習】 提示された書籍を読む
	第 2 回	専門看護師として活用できる教育的スキル (2) 行動変容理論、トランスセオレティカルモデル (TTM) (教員)	
5/30 (土) 14:45～16:15 (オンライン)	第 3 回	一般市民・がんサバイバーのヘルスリテラシー向上のためのスキル、教育評価の方法論 (田中京子先生)	【事前課題】 提示された書籍を読む
模擬授業までの 期間に適宜グル ープワーク	第 4・5 回	教育計画立案 (授業案、資料) ①② (自主的に) 受講生同士で教育計画立案、実施のための準備を進める	
7/2 (木) 18:00～19:30 (対面@阿倍野 キャンパス)	第 6 回	模擬授業	【事前学習】 作成した教育計画に沿って模 擬授業に必要な資料などを準 備する (印刷が必要な場合は事 前に連絡する) 【事後学習】 模擬授業後、教育計画及び評価 表などの修正を行う

8/7（金） 10：30～12：00 （対面@阿倍野 キャンパス）	第7回	がん予防教育の実施 各自で企画した教育の実施、評価、報告書 作成	【事後学習】 報告書（A4 半分程度の抄録と 発表用スライド）を作成する
8/21（金） 18：00～19：30 （オンライン）	第8回	報告会	【事前学習】 報告会に必要な資料を準備し、 事前に提出する

4.修了要件

- ・達成目標の1）～3）の達成度により評価を行う。
- ・実施した教育の報告書
- ・すべての授業への出席を原則とする。

5.履修上の注意

- ・授業スケジュールは適宜調整し提示する。第1・2・3・8回はオンライン授業、第4・5回は自主的にグループワーク、第6・7回は臨地での演習（対面授業）とする。
- ・オンライン授業は、Zoom を用いるためアプリをインストールして授業に参加する。オンライン授業の際の通信費と臨地での演習は自己負担とする。
- ・事前学習に必要な文献については、適宜周知する。

6.教員への連絡方法

作田裕美：sakuda@omu.ac.jp

林田裕美：yumihay@omu.ac.jp

徳岡良恵：tokuokay@omu.ac.jp

高尾鮎美：a-takao@omu.ac.jp

がんと共生を支える専門看護師強化プログラム B（インテンシブコース B）
地域共生社会の実現に向けたがんサバイバー相談システム構築支援プログラム
看護相談ネットワーク開発演習 シラバス

1.授業概要

がんサバイバーががんと共に自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現するために、管理的な視点を有して組織と調整を図り、施設内および地域との連携を含めたがんサバイバーの相談システムを構築する方法論について学ぶ。

2.到達目標

以下の 1) ～ 3) について到達できることを目標とする。

- 1) 相談システム構築に必要な考え方やスキルを理解できる
- 2) 組織の課題を理解して企画案を考えることができる
- 3) 相談システムを構築していく上での自己の課題を見いだす

3.授業日程・授業内容

日時（方法）	授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
9/30（水） 9：00～10：30 （オンライン）	第 1 回	システムの構築と組織分析について（二宮由紀恵先生）	【事前学習】所属組織の組織図を準備する
10/5（月） 13：00～16：15 （オンライン）	第 2 回	企画書の書き方について（杉下薫先生）	【事前学習】組織分析をもとに組織の中で自身がやりたいことを明確化する 【事後課題】自己の企画書を作成する
	第 3 回	交渉について（杉下薫先生）	
10/26（月） 14：00～17：15 （対面）	第 4・5 回	演習：事例を用いたロールプレイ ①②（森井淳子先生、杉下薫先生、二宮由紀恵先生）	【事前学習】配布された要項と事例を読み、必要な学習を行う
適宜（個人ワーク）	第 6 回	自施設での交渉準備	
11/17（火） 14：00～17：15 （対面）	第 7・8 回	自施設での交渉資料に基づく発表改善案の作成 自己の課題の明確化 （森井淳子先生、杉下薫先生、二宮由紀恵先生）	【事前学習】自己の企画書を発表するための資料を作成し、事前に提出する 【事後学習】自施設での相談支援システムの企画書の改善案を検討し、自己の課題を明確化する（最終レポートとして提出）

4.修了要件

- ・到達目標の達成度で評価を行う
- ・提出課題：自施設での相談支援システムの企画書の改善案と自己の課題について
- ・すべての授業への出席を原則とする。

5.履修上の注意

- ・第1・2・3回はオンライン授業、第4・5・7・8回は対面授業、第6回は個人ワークとする。
- ・オンライン授業は、Zoom を用いるためアプリをインストールして授業に参加する。オンライン授業の際の通信費と臨地での演習は自己負担とする。
- ・対面授業は大阪公立大学阿倍野キャンパスの看護学舎を使用する。

6.教員への連絡方法

作田裕美：sakuda@omu.ac.jp

林田裕美：yumihay@omu.ac.jp

徳岡良恵：tokuokay@omu.ac.jp

高尾鮎美：a-takao@omu.ac.jp